

▼秦荘西小学校の水泳授業



小学校 インストラクターによる水泳指導

7月に、児童水泳促進事業として、町内4小学校でインストラクターを派遣した水泳授業を行いました。

この授業は、学校で行われる水泳指導の質を高め、水に触れる楽しさと技術の取得を目的に企画したもので、初めて水に顔をつけられるようになったり、初めて25m泳ぐことができるようになった児童もいました。

児童たちは「水が冷たくて気持ちいい。久しぶりのプール楽しい」「もっと水泳がうまくなりたい」と話していました。



▼夜空に美しく輝く花火

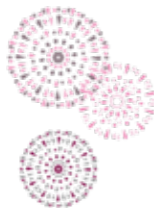


第139回愛知川祇園納涼祭花火大会

7月15日、第139回愛知川祇園納涼祭花火大会が愛知川の愛知川河川敷で行われ、浴衣姿の人々にぎわい、家族や友人等と花火の見物を楽しむ姿が見られました。

本大会は、4年ぶりの復活となり、3,500発の花火が空に打ち上げられました。

空には、ダイナミックな演出の花火スターマインをはじめ、故人を偲ぶ花火や子どもの成長を願った花火など、人々の想いのこもった花火が打ち上げられ、河川敷は歓声に包まれていました。



▼明治時代の教科書に興味津々な児童たち



秦荘東小学校 愛荘町歴史ボランティアガイド講座

7月12日、愛荘町観光ボランティアガイドさんによる、小学3年生の「歴史ボランティアガイド講座」が行われました。

この講座では、明治時代の教科書や瓦など、貴重な資料に触れながら、秦荘東小学校区の歴史や遺跡について学びました。

児童たちは、「愛知郡は昔こんなに広がったんだね」「秦荘には昔立派なお寺があったんだ」「昔の教科書は小さくて文字がぎっしりで今とは全然違うんだね」と感想を述べていました。

児童たちは、身近な地域の歴史への理解を深めました。

▼入賞した剣士たち



第13回高島市文武両輪剣道錬成大会入賞

7月17日、第13回高島市文武両輪剣道錬成大会（新旭体育館ふれあいサロンさわやか）が開催され、愛知川剣心会が全部門で優勝しました。

【3年生以下の部 優勝】

徳田 葉太さん、森 拓登さん、堀内 心菜さん

【小学生フリーの部 優勝】

Aチーム 原田 颯士さん、高野 菜輔さん、近藤 杏樹さん、西村 温稀さん、森 朱生さん

【小学生フリーの部 敢闘賞(ベスト8)】

Bチーム 西村 琴寧さん、三輪 楓佳さん、細江 ひかりさん、森 ひなたさん、柿添 心優さん

▼災害時も安心なポータブルワイヤレスアンプ



防災グッズを寄贈いただきました

7月18日、滋賀県電気工事工業組合（以下、「組合」という。）から、防災グッズ（ポータブルワイヤレスアンプ）を、1セット寄贈いただきました。

町と組合は、防災協定を締結しており、例年、住民の安全安心なまちづくりに寄与するため、組合から災害時に活用できる備品等を寄贈いただいております。

寄贈いただいた防災グッズを活用し、一層災害に強いまちづくりに努めていきます。



▼北村 政治 さん（写真右）と寄贈いただいた車イス



あたたかい気持ちと行動から車イスの贈り物

7月18日、北村 政治さん（蚊野）が愛荘町社会福祉協議会へ車イスを寄贈されました。

北村さんは、福祉に少しでも役に立てればとの思いから、平成17年から現在まで約18年間の長きにわたり、空き缶のプルタブを集め、人と環境に優しい活動をされていました。

北村さんは「小さな瓶にプルタブを集めることから始めていたところ、私の活動を知った地域の皆さんも一緒になってプルタブを集めてくださいました。地域の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ようやく今、100kgのプルタブを元に車イスの実現ができて嬉しいです」と話されました。

子どもなんでも相談室



◆「ADHD（注意欠如・多動症）」とは

今回はADHD（注意欠如・多動症）についてお話しします。

ADHDは、「集中できない・気が散りやすい・物をなくしやすい・順序立てて活動に取り組めない（不注意）」と「じっとしてられない・静かに遊べない・待つことが苦手（多動、衝動性）」が、同じ年齢の子どもたちと比べてより多く、強く見られます。ADHDの特徴は、通常12歳以前から見られるといわれていて、小学校高学年くらいになると徐々に目立たなくなっていくことが多いです。

ADHDを持つ子どもは、車に例えれば、アクセルがかかりやすく、ブレーキがききにくいタイプです。本人は止めようと力いっぱいブレーキを踏んでいるのに、どうにも止められないという状態です。このような状態は、周囲からは「わがままで、がまんが足りない」と見られがちです。ADHDを持つ子どもは、周囲の人たちから厳しく叱られるため、「どんなにがんばってもうまくいかない自分」という否定的なイメージを持ちやすく、家庭や学校で辛い思いをしています。大人と安定した関係を築けない子どもは、「ありのままの自分がいいんだ（自

己肯定感）」という気持ちを持たず、さらに症状を強めることもあります。

ADHDを持つ子どもへの対応の仕方は、環境を整えること、子どもに対する関わりを変えること、医療などを組み合わせて行うことが効果的だといわれています。

まずは、子どもが少しでも集中しやすくなるような環境を作ること、時間を10～15分に区切ることも有効です。子どもの行動に対しては、好ましい行動に報酬を与え、減らしたい行動に対しては過剰に叱らずに報酬を与えないことで、好ましい行動を増やす試みが良いといわれています。子どもが行動を我慢できたこと、その行動が減ることに注目して、すぐに褒めてあげましょう。

参考：『子どものこころ百科』 東山 紘久（編著）
『ADHD（注意欠如・多動症）の診断と治療』
厚生労働省 e-ヘルスネット

問 健康推進課（愛知川庁舎）
子育て世代包括支援センター
☎0749-42-7661

